

異校種（小・中学校）教員による授業参観 【6回目】

昨年11月に、教育委員会では、小・中学校の教員による秋田県横手市への教育訪問研修を行いました。この時の研修成果発表が、小・中学校の教員の授業参観により行われました。そこで今回は、研修成果の発表の様子について紹介いたします。

令和5年2月3日（金）第6校時

西中学校 3年1組 古舘 朝也 教諭

「国語」

誰かの代わりに・価値を生み出す



「自分とは何か」「自立とは何か」「責任とは何か」と筆者が投げかける問いに対し、自分や社会の在り方について考えていく単元でした。生徒の実態としては、自分の意見を持つときに根拠が曖昧だったり、他者の意見を比較検討したりすることが課題となっていました。そこで、グループでの話し合いを通して多面的・多角的な視点で個々の生徒が自分の考えを練り上げていき、柔軟な発想で課題を解決していくような工夫が行われました。また、横手市教育訪問での学びを活かした授業改善として、授業開始から振り返りまでを生徒が主体となって授業を進めるようにしていました。

令和5年2月25日（金）第5校時

中山小学校 6年2組 須田 智大 教諭

「国語」

海の命



「なぜ太一（主人公の少年）は、瀬の主（クエ）を打つのをやめたのか」この学習課題について、子ども達は太一的心情の変化について叙述をもとに想像しながら話し合いを活発に進めました。話し合いの核心は、「太一は、瀬の主（クエ）を「打たなかった」のだろうか？」についてへ。与吉じいさんの「千匹に1匹でいいんだ。・・・」から打つ必要はないと主張する児童。「大魚（瀬の主）はこの海の命だと思えた。」から海の命を打てなかったと主張する児童。話し合いは非常に白熱しました。